デイヴィッド・レイランド（指揮）

David REILAND, Conductor

　ベルギー出身。モーツァルトの指揮に定評があり、注目される。ザルツブルク・モーツァルテウム管の副指揮者を経て、2018年からフランス国立メス管（旧フランス国立ロレーヌ管）とローザンヌ・シンフォニエッタの音楽監督を務めている。また、2020年にデュッセルドルフ響の「シューマン・ゲスト」、2022年には韓国国立響の音楽監督・首席指揮者に就任した。

　ベルギー国立管や王立リエージュ・フィルなど自国のオーケストラと定期的に共演するほか、近年はトゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマンド管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ベルリン・コンツェルトハウス管、都響、京響、大阪フィルなどにも招かれている。

　オペラにも積極的で、ソウル、ジュネーヴ、アントワープ、ライプツィヒ、ベルリンなどでモーツァルト《魔笛》《コジ・ファン・トゥッテ》《皇帝ティートの慈悲》などのほか、《フィデリオ》《カルメル派修道女の対話》《トスカ》《椿姫》《エフゲニー・オネーギン》《ナブッコ》《サムソンとデリラ》《ホフマン物語》《ファウスト》《真珠採り》《マハゴニー市の興亡》といった作品を指揮している。

　録音も多く、ゴダールの交響曲第２番やオーベールのオペラ《水の精》など、演奏機会が稀な作品のCDをリリース。